

令和元年11月12日

羽生市議会議長 様

会 派 名 拓政会  
代表者氏名 会長 保泉 和正



### 行政視察報告書

このことについて、下記のとおり実施したので報告します。

#### 記

1. 視察日程 令和元年11月7日(木)～8日(金)
2. 視察項目 第81回全国都市問題会議 テーマ「防災とコミュニティ」
3. 視察参加者 保泉和正、島村 勉
4. 視察概要

第81回全国都市問題会議が鹿児島県霧島市国分体育館で開催された。主催は、「全国市長会」「公益財団法人後藤・安田記念東京都市研究所」「公益社団法人日本都市センター」「霧島市」、協賛として「公益財団法人全国市長会館」である。今回の議題は「防災とコミュニティ」を掲げ、基調講演、主報告、一般報告などが行われた。

#### ○1日目

全国市長会会長の立谷秀清氏(福島県相馬市長)の挨拶から始まり、志學館大学人間関係学部教授 原口 泉 氏の「鹿児島の歴史から学ぶ防災の知恵」と題して基調講演が行われた。その中で、

- ①南九州のシラス文化と自然災害について
- ②災害後の「門割制度という防災農法」について
- ③人災から歴史史料を守る

の3項目について講演が行われた。

次に、中重真一氏(霧島市長)から「霧島市の防災の取組～火山防災～」について主報告が行われた。

平成23年1月26日の新燃岳の大噴火の経験から、火山防災を通しての市の対応「住民、登山者への安全対策」「農業被害対策」「観光業界等の被害対策」「自治体間、関係機関等との連携・協力」等について報告があり、災害に対して、住民一人ひとりによる「自助」、地域住民

やボランティア、企業等が協力して取り組む「共助」が重視されている。行政においては、地域、住民の取り組みへの支援はもとより、地域社会を中心としたコミュニティの防災への取り組みの推進に努め、いつでも起こりうる災害に機能を発揮できるコミュニティの構築と災害に強いまちづくりを目指していきたいとの報告があった。

そのほか、一般報告として、

1. 「災害とコミュニティ：地域から地域防災力強化への答えを出すために」

尚絅学院大学人文社会学群長 田中重好 氏

2. 「平成30年度7月豪雨災害における広島市の対応と取組について」

広島県広島市長 松井一實 氏

3. 「火山災害と防災」

国立研究開発法人防災科学技術研究所火山研究推進センター長 中田節也 氏

の3名から報告があり、

田中重好氏は、「コミュニティをどう捉えるか」として、概念を正しく理解するためには、次の点を理解する必要があるとした。①コミュニティは社会関係、社会集団、地域的アイデンティティの三つの要素からなる境界をもった住民の塊である。②コミュニティはさまざまな地域の総称である。③コミュニティは重層的な構造を持っている。④個々のコミュニティは個性的であり、そのため、コミュニティは多様だ。⑤テーマごとにコミュニティを考えることができる。⑥コミュニティは行政から「つくることができない」もの、自主的な存在だ。

結論として「災害時のコミュニティの実態(コミュニティと避難行動、コミュニティと復興への取り組み)」、「現在の防災・復興対策におけるコミュニティに関連する課題・問題点」「自治体で、どうコミュニティ対策をしていったらいいのか」についてそれぞれ説明があり、従来のように政府に頼るのではなく、「それぞれの自治体が答えを出してゆかなければならない」。こうした「地域ごとに答えを出す」という自覚から、この問題は出発するのであると結んでいた。さらに、全国市長会の横のつながりを大切に、それぞれの実践を共有して、全国の自治体の共同の経験にしていくことで「地域から答え」が生まれ「地域からの防災力強化」が実践する近道であると結んでいた。

松井一實氏は、災害被害を経験から、皆様に伝えたいこととして、「平常時」は、自分の市町は大丈夫であろうと予断を持たず、災害への備えをとっておくこと。近隣の市町との危機管理体制の連携を図ること。「災害発生の可能性が高まった時」は、狼少年論を恐れることなく、人命を大切にすることに最善を尽くすのみという覚悟を持つこと。「復旧・復興期以降」は、復旧にあたっては、単に機能復旧するだけでなく、その地域に住んでいる住民が、これからも愛着を持って住み続けられるような“まち”にしていくという視点を持つこと。前例にとらわれず、常に検証を行い、必要な改善を行うこと。そして、災害を記録に残し、継承を図ること。一刻も早い生活再建が進むことが大切と結んでいた。

## ○2日目

追手門学院大学地域創造学部地域創造学科長・教授 田中正人氏をコーディネーターとして、「防災とコミュニティ」をテーマに、専修大学人間科学部教授 大屋根淳先生、香川大学地域強靱化研究センター特命准教授 磯打千雅子先生、霧島市国分野口地区自治公民館長 持留憲治氏、静岡県三島市長 豊岡武士氏、和歌山県海南市長 神出政巳氏 の5氏をパネリストに迎え、パネルディスカッションが開催された。

・大屋根先生は、「コミュニティ・レジリエンス醸成のカギをさぐって～結果防災(活動・組織)の掘り起こし～」について

・磯打先生は、「目標と限界を共有する戦略的な連携計画～地域継続計画 DCP～」について

・持留氏は、「地域コミュニティの強化を目指して」について

・豊岡氏は、「安全・安心なまち三島を目指して～地域防災とコミュニティ～」について

・神出氏は、「防災活動を通じた地域との連携～更なる信頼関係の構築について～」についてを、それぞれ発表していただき、コーディネーターの田中先生に、都市計画、災害復興の専門博士の立場から解析ご指導をいただき、これからの防災とコミュニティの指針として、地域で活用できる様に研修をさせていただいた。

### 【感想等】

私たち羽生市の平穏さとは、今回の研修報告者、パネラーらの都市の厳しい現実の被害実態、そして、その対策、地域力の違いを改めて感じた。羽生市も先日の台風19号では、避難勧告・指示の寸前であったが、いつ大きな災害に見舞われるか天のみぞ知ることであり、この研修を参考に災害の予防・対応に備えなければならぬと、改めて心を引き締めたいと感じた。